

# 人はなぜその席を選ぶのか？

## コワーキングスペースにおける働き方と居心地から読み解く、座席選択要因の研究

212007 大兼梨奈

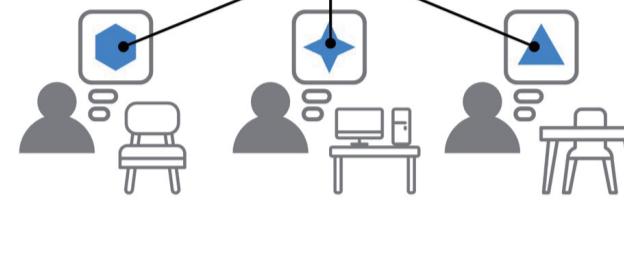
### 研究の背景と目的

新型コロナウイルスが流行した2020年以降、全国的にテレワークが普及したことに伴い、会社に出社せず自宅やコワーキングスペースなどをワークスペースとする人が増加し、人々の働き方や生活スタイルが多様に変化している。

働き方が多様化している現在、一人ひとりの利用者が心地よく利用できる多様な使い方が可能な空間にデザインするためには、利用者の利用目的や空間を居心地よく感じる要因を分析する必要がある。多くのコワーキングスペース内のオープンスペースには高さや素材、配置が異なる座席が設置されており、利用者は空間内の席を任意に選び使用していることから、利用者の席の選び方を調査することでこれらを知ることができると考えた。

本研究では、「コワーキングスペース利用者の席の選び方を分析することで、利用者が感じる居心地の良さと利用目的となっている価値を明らかにすること」を目的とし、本研究の分析結果が、今後の類似のコワーキングスペース等のワークスペースの設計の際に指標となる調査・分析となることを目指す。

利用者は働く目的や居心地の良さで席を選択。  
利用者が意識した項目から席の選択要因を分析する。



### 対象施設の基本調査

#### 施設概要

本研究では、研究対象の施設を新潟県長岡市に位置する米百俵プレイスミライエ長岡内のコワーキングスペース「NaDeC BASE イノベーションサロン」とする（以下、イノベーションサロン）。ミライエ長岡は図書館、コワーキングスペース、カフェ、シェアオフィスなどが一体となった図書館型複合施設である。イノベーションサロンは、学生の交流を促す取り組みや起業支援に力を入れていることから、社会人や学生など様々な属性を持つ人に利用されている。

#### 利用者

2025年10月～12月の3ヶ月間の利用者数は1,754人（月額会員・ドロップイン利用者合計）。

1ヶ月の平均利用者数は約585人、1日の平均利用者は19人である。

月額利用に登録している会員は20名（R7.12.1時点）。

#### 空間構成

入り口には受付カウンターがあり、利用者は受付後に利用可能。

多様な種類のインテリアが置かれ、利用者は各々の利用目的などによって席を使い分けることができる。オープンスペースでは主にパソコン仕事など机に向かって1人で取り組む作業をしている利用者が多く見られ、対面やオンラインでの打ち合わせにはチャットルーム等の個室を利用する利用者が多く見られる。イノベーションサロンの空間構成を右図に示す。座席番号を割り振り、場所の特徴ごとにエリア分けをした。



### 本調査の実施

#### 調査と分析の流れ

調査と分析は以下の流れで実施した。

- | 調査 |
- アンケートの項目抽出のためのヒアリング（2025/8/9月）
  - アンケートによる定量データ収集（2025/10/14～11/14）
  - 回答者へのヒアリングによる定性データ収集（2025/10/31～12/2）

- | 分析 |
- 「認知（居心地）の要因」の項目ごとの単純集計
  - 「認知（居心地）の要因」の項目同士の相関関係の算出
  - ヒアリング結果の質的分析

#### アンケート集計・ヒアリング

イノベーションサロンの机に回答用のカードを設置し31件の回答を収集した。また、アンケート回答者のうち10名にヒアリングを実施し、回答内容について詳細に尋ねる質問をして定性データを収集した。

##### アンケートの質問項目

属性・目的（働き方）についての質問	認知（居心地）についての質問
所属 / 利用頻度 / 利用歴 / 利用時間 / 使用した席 / 席の利用頻度 / 仕事をした姿勢 / 集中度合い / 取り組んだ仕事内容 / イノベーションサロンを利用する理由（自由記述）	人からの目線 / 自分からの見え方 / 他利用者との距離 / 聞こえる周りの音 / 自分が発する音 / インテリアの使い心地 / 照明 / 上記以外での席の選択理由（自由記述）



#### アンケート項目抽出のためのヒアリング

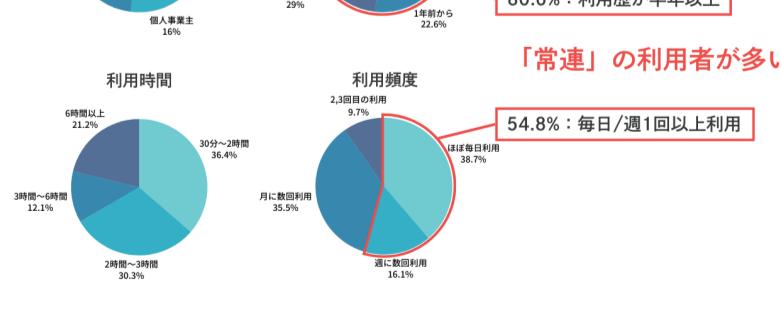
アンケートの質問項目抽出のためのヒアリングでは、利用者3名に自由回答形式でヒアリングを実施し、ヒアリングで言及された内容から利用者が席を選択する要因を抽出した。要素は「属性・目的（働き方）の要因」、「認知（居心地）の要因」の大きく2つに分けられ、これらを聞くアンケート項目を作成した。

### 回答者の属性・プロフィール

利用歴は半年以上の利用者が80.6%を占め、利用頻度に関しては社会人はほぼ毎日利用している人が最も多く、社会人の利用者はイノベーションサロンを日常的な仕事場として利用していることが分かった。

学生の利用者は月に数回使っている人が最も多い。ヒアリングではイノベーションサロンを利用する理由として「参加しているプロジェクトの打ち合わせのために週に1度利用する」「イベントが開催された際に来る」という回答が複数あったことから、学生の利用者はイノベーションサロンを打ち合わせ場所やイベントの参加などで利用していると考えられる。

利用時間と利用頻度の関連を分析するためにクロス分析を行った。ほぼ毎日利用する人は6時間以上利用している人が多いことから、利用頻度が高い人は日常的な仕事場として利用している「常連」であることがここからも分かる。また、月に数回利用する人は30分～2時間の利用が最も多い。これに該当する利用者へのヒアリングでは「打ち合わせで利用したついでに、打ち合わせ前後の時間で少し別の仕事をした」という回答が複数あったことから、1時間程度の打ち合わせ目的でイノベーションサロンを利用し、前後の時間でついでに仕事をするという使い方をしている人が多いと考えられる。



頻度	利用（ほぼ毎日）	利用（週に数回）	利用（月に数回）	利用（2～3回）
30m～2h	1	1	4	1
2h～3h	2	1	4	0
3h～6h	1	1	0	0
6h以上	6	2	1	0